

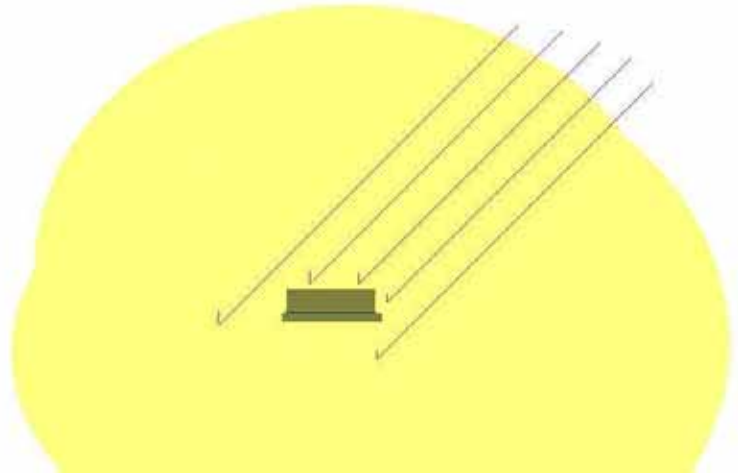
窓際の室内空気の温度計測について

室内(屋内)の温度は、その場所その場所によって異なり、一様ではありません。たとえば、天井と床では、同じ空間でも異なった温度になっています。

ですので、室内(屋内)のどの場所の温度を測定したいかによって、温度計の設置箇所を決める必要があります。

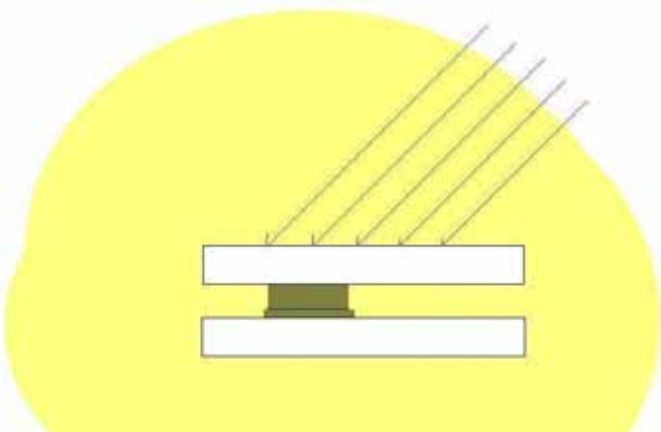
ただし、日差しが入る窓近くに、サーモクロンを設置する場合は、その**窓越しから入る日差しが直接当たらない様な工夫が必要です。**

“金属製”のサーモクロンを直射日光の当たる場所に設置すると、サーモクロン自身が、独自に暖められ、その周囲の空気の温度より、熱くなります。その結果、**直射日光の当たった空気の温度**ではなく、**直射日光で熱くなった金属の温度**を測定していることになります。



直射日光の当たった空気の温度を計測したい場合は、サーモクロンが直接日差しに当たらないように、断熱材等で日除けすることをお勧めいたします。

例えば、板状の発砲スチロールを2枚用意して、下図のように、その間にサーモクロンを挟めば、日射が直接サーモクロンに当たるのを防ぐことができます。



この時に注意することは、断熱材でサーモクロンを完全に覆い囲わないようすることです。サーモクロンを密閉してしまうと、**直射日光の当たった空気**から遮断してしまい、目的とする**直射日光の当たった空気**の温度計測ができません。できるだけ、開放的な形状にしてください。また、覆う断熱材の大きさは、サーモクロンに比べて、大き過ぎないようにすることも大切です。ぎりぎり、サーモクロンが直射日光に当たらない程度の小ささとどめるべきです。

なお、主目的が**直射日光の当たった空気の温度**ではなく、ガラスの断熱性(遮熱性)を“比較”することが目的の場合は、必ずしも上述のように直射日光を避ける必要はありません。その場合は、直射日光に当たったサーモクロン(から得られた温度値)を比較することでも、その断熱性(遮熱性)は確認できます。もちろん、上述のような方法で、**直射日光の当たった空気**の温度を比較しても、その確認は可能です。